

湯ノ岳断層に関する断層調査状況について (速報)

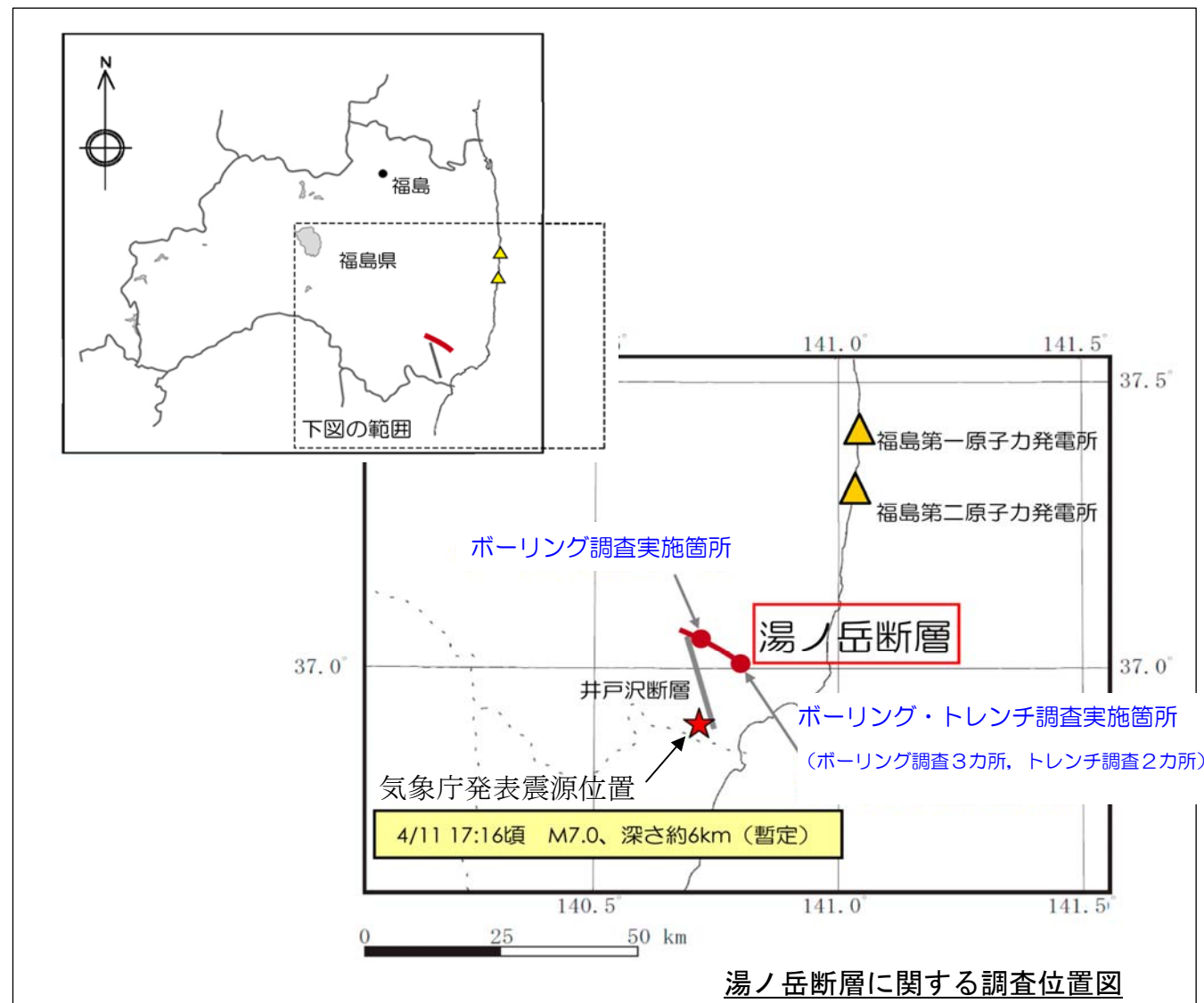
1. 調査目的

当社は、4月11日に発生した福島県浜通りの地震 (M7.0) において、耐震設計上考慮する活断層と評価していない湯ノ岳断層沿いに正断層型の地震断層 (地震に伴って地表に現れた断層) が出現していることを確認しました。このことを踏まえ、湯ノ岳断層の後期更新世以降 (約 12~13 万年前以降) の活動の有無を把握するために、同断層周辺においてボーリング調査およびトレンチ調査を実施しています。

2. 調査概要

(1) 調査範囲

下図に示す範囲について調査を実施中です。



(2) 調査実施時期 (予定)

平成 23 年 9 月 29 日~平成 23 年 12 月上旬

(3) 調査状況 (速報)

湯ノ岳断層については、敷地との距離 (福島第一から約 50km, 福島第二から約 40km)、断層長さの観点から敷地への影響が小さいため、これまで地表面の状況に基づき断層の活動性を評価し、耐震設計上考慮すべき活断層ではないとしていました。

今回、湯ノ岳断層沿いに地震断層が出現したことから、湯ノ岳断層の後期更新世以降の活動の有無をより詳細に把握するため、左図に示す位置において地下の状況が把握できる調査としてボーリング調査およびトレンチ調査を実施しています。

その結果、後期更新世以降に堆積したと従前に評価していた堆積物中に湯ノ岳断層が過去に活動したと見られる痕跡 (地層のズレ) を確認しました。

現在、堆積物の年代など評価に関わる分析を実施中です。調査結果については、評価が取りまとめ次第、お知らせします。



ボーリング調査状況写真



トレンチ調査状況写真

3. 調査数量・概略工程 (予定)

調査項目	数量	9月	10月	11月	12月
ボーリング調査	4 地点		■		
トレンチ調査	2 地点			■	
分析・評価				■	